



常陸太田市内の城跡マップ



～発掘された所や地名からの確認～



清和天皇一源頼義一義光一義兼一昌義一忠義

藤義一時義一義重一長義一義胤一時義

源義一義為一義宣一義盛一義実一義俊

藤治一義舞一義将一義昭一義重一義宣

(佐竹氏略系図)

なんと、城が54城も!!

西金砂神社

806年に造られたと伝えられています。最初は、お寺と神社が一緒で、佐竹氏に大切にされましたが、江戸時代に徳川光圀によって神社だけになりました。天然記念物の老木も複数ありますが72年ごとの大祭礼や6年ごとの小祭礼が有名です。

山がわくわくして、車で行くのも大変

全砂山城 53

築城年代は不明ですが、山が険しく天然の要害です。佐竹氏の最盛期の16世紀前半頃に築かれたと推定されています。城跡からは金砂川と山田川が流れ、戦場跡が確認されています。

全砂合戦(1180年)

源頼朝は、源氏の一族でありながら平家朝敵と立ち上がった源頼朝と戦った源氏の一族に立ち向かい、全砂合戦にて平家朝敵を破りました。しかし、源頼朝は1185年に平家朝敵の討伐を命じられ、1185年10月には全砂合戦に勝利し、源頼朝は全砂を占領しました。

利貞龍見城 54

浅川の左岸、標高20mほどの丘にあります。佐竹氏の最盛期の16世紀前半頃に築かれたと推定されています。城跡からは浅川が流れ、戦場跡が確認されています。

高柵城 37

室町時代初期、大塚氏が館を設けて居住したと伝えられています。その後、小野崎氏から久米氏へ変わり、山入の乱後に佐竹一門の重鎮である佐竹北家として200年余り続きました。しかし、1602年の秋田転封により廃城になりました。佐竹北家の菩提寺として常陸院が近くに建っています。

久米城 40

鎮守時代に大塚氏が館を設けて居住したと伝えられています。その後、小野崎氏から久米氏へ変わり、山入の乱後に佐竹一門の重鎮である佐竹北家として200年余り続きました。しかし、1602年の秋田転封により廃城になりました。佐竹北家の菩提寺として常陸院が近くに建っています。

花房城 14

南北朝1336年に起きた瓜連合戦において、南朝方の那珂通俊が陣を張ったと伝えられています。城周辺には「庚辰山」「御陣場」という地名が残っています。浅川と久米川の間、標高69mの山にあり、佐竹氏の全砂山城・武生城を意味する南朝側の築城の可能性が高いと考えられています。

<考えたこと>

常陸太田城を囲むようにたくさんの小城や館が密集していました。でも、山田川沿いに多いのはなぜだろうと思いました。山入の勢力が強かったからだろうか。

また、明治に入ってすぐに常陸太田城がこわされたのは、どうしてだろう。人々に大切に思われていなかったからだろうか。とても残念に思っています。

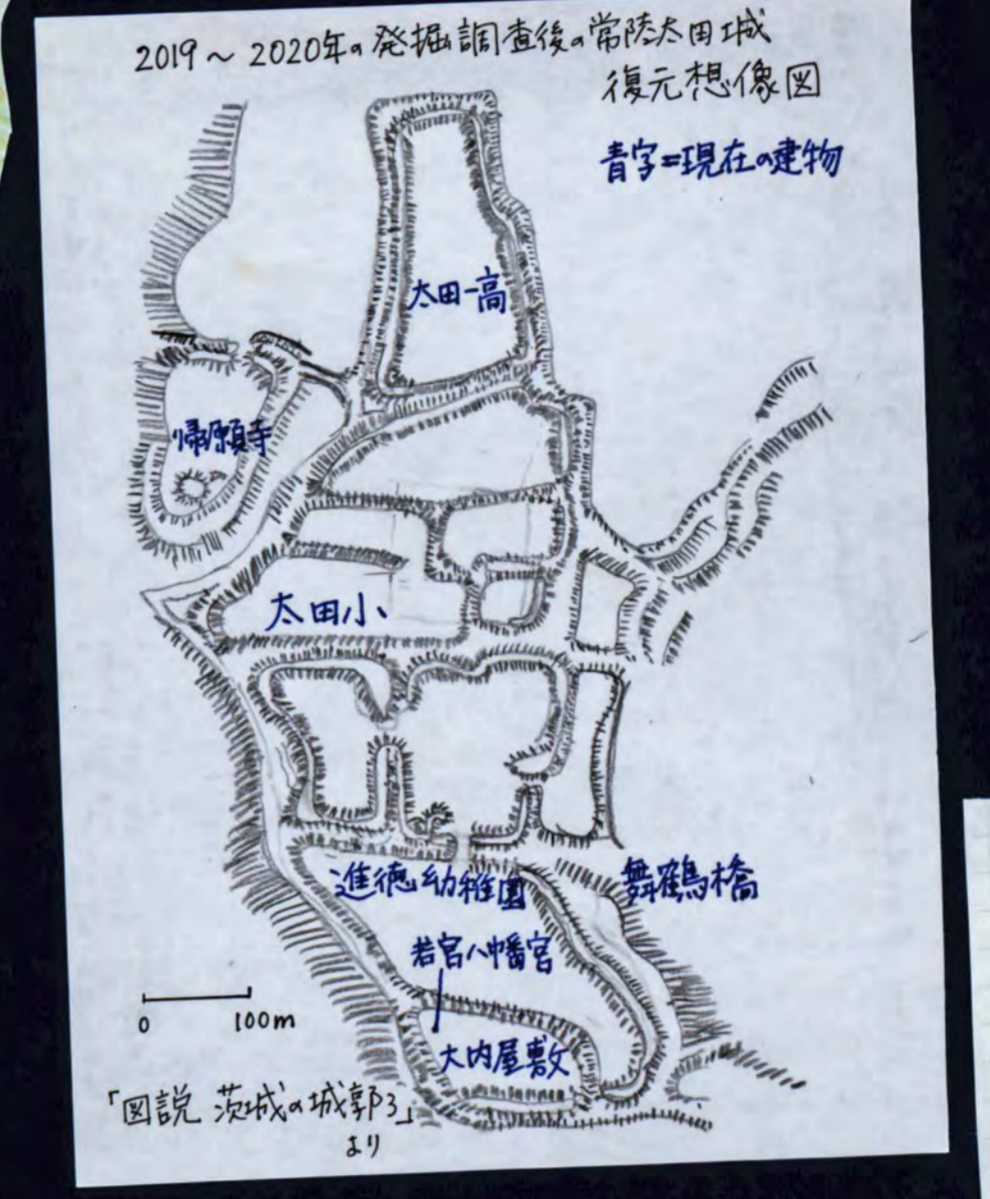
<参考文獻>

「全砂郷村史」

「改訂版図説 茨城の城郭」

「続 図説 茨城の城郭」

常陸太田市ホームページ



西金砂神社

西金砂神社と同じく806年に造られたと伝えられています。最初は、お寺と神社が一緒で、佐竹氏に大切にされましたが、江戸時代に徳川光圀によって神社だけになりました。天然記念物の老木も複数ありますが72年ごとの大祭礼や6年ごとの小祭礼が有名です。



- 30 十郎山館
- 31 茅根岡館
- 32 中屋敷
- 33 根元館
- 34 小野館
- 35 八雲館
- 36 田渡城
- 37 高柵城
- 38 小野崎城
- 39 常陸太田城
- 40 久米城
- 41 幡館
- 42 大里荒谷城
- 43 街陣屋城
- 44 花房城
- 45 馬塚城
- 46 西岡西館
- 47 大森薄井館
- 48 小野館
- 49 高井館
- 50 岡部館
- 51 河合城
- 52 金砂山城
- 53 利貞龍見城

調べ方

有名な城跡である「常陸太田城」や「馬塚城」、佐竹氏の菩提寺である「正宗寺」と金砂郷小中学校内にあるいくつかの城跡は、実際に見に行き、それから外への城跡は「茨城の城郭」等々を見て地図上にマーカーしました。

調べたわけ

僕は歴史が好きで、地域の歴史人物がいないかと思いついて調べたところ、佐竹氏が建てた。そして、市内の主要な城である常陸太田城や久米城が佐竹氏のお城で、その佐竹氏に封じたお城も存在していることがわかりました。

そこで、おもしろいので、くわしく調べたいと考え、地図に表すことにしました。

正宗寺 正

923年平将門の父良将が創建、佐竹氏の菩提寺として繁栄し、徳川の時代になって、隆盛していましたが、1838年に焼失。1870年に再建されました。本尊は木造十一面観音菩薩像です。

常陸太田城 80

1109年小野崎氏・築城(佐竹隆兼)が手にし、佐竹氏の本拠地として、約460年間にわたって佐竹氏の本城としていました。秋田移封後も水戸藩の太田御殿として存続し、最終的に破壊されたのは、明治初期の750年近く長い歴史を有する城で、南端が若宮神社、北端は太田高の北側で、南北1000m、東西最大500mという広大な城でした。

佐竹氏の国替え

関ヶ原合戦時、佐竹氏は態度不明瞭にしていたが、戦いが終わってしまいました。家康に恭順の姿勢を示し、処分を逃れたいと申し立てた。1602年に突然の沙汰が出され、出羽に領地を移すことになった。旧領は4万石に対し、新領は20万石。下級家臣も移すにせざるを得ない。切羽詰まったものだった。

国見山(291m)の悲しい話

山の名前は「国見」から来たと言われ、1489年山入りが佐竹氏が混同し、弱体化した時を突いて常陸に侵入し、奥州の義重、田村、伊達、岩城等の連合軍は「深草」で佐竹氏を破り、佐竹氏は国見山に逃げ込みました。しかし、包囲され、故郷を恨んで自害したという伝説があります。別名「道腹山」。

田渡城 36

天文年間の築城で常陸太田城の東、防衛拠点であったと考えられています。巧妙な縄張りを持ち、鉄砲陣地のようになっている。戦国末期の遺構と考えられています。

<感想>

分かっていただけ、城が54あったこと、また壮絶な戦いが繰り広げられたことに驚きました。地図に表したことによって、城の地理的特徴やどこからの敵軍に封じられたか、佐竹氏の歴史がわかり、面白く思いました。これから、他の常陸太田市の人物も調べてみたい。一番大変だったことは、地図上のマーカー。文獻の地図は、小字名だけなので、市全体の地図にマーカーするに、等高線や道路、川の流れなどを判断し、とても時間がかかりました。(元起)

一冊に作業をして昔のこと、きょうみ、かかわりました。細かい作業で大変だったけれど、文章の清書をしたり、イラストを描いたりするのは、とても楽しかったです。(ゆうみ)

山入氏の城

